

# 学校・行政・拠点が連携してESDを進める上での留意点とは何か？

田中拓弥・蒔田尚典・中澤敦子((一社)コミュニケーションデザイン機構)

## I はじめに

「持続可能な社会の創り手」の育成やSDGs達成のための人材育成に向けて、学校・行政・拠点を含む多様な主体による連携・協働が重要！

「ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引」(改訂版)  
(文部科学省, 2018)

“優良事例を手がかりとした、各学校におけるESDの取組に対する指導助言上のポイント”

〇どのように取り組むのか

ESDを効果的に推進するためには、ESDの実施を学校経営方針に位置付け、校内組織を整備して学校全体として組織的に取り組むこと、ESDを適切に指導計画に位置付けること、**地域や大学・企業との連携の視点を取り入れること**、児童・生徒による発信と学習成果の振り返りを適切に行うことなどが重要です。

## II 方法

フォーラムにおけるワークショップの成果を参照した。

### 近畿ESDフォーラム2018

日時: 2019年1月12日(土) 10:00~18:00

場所: OMM 2階 会議室 (大阪市)

参加者: 教員、教育委員会事務局、自治体職員、NPO/NGO、環境学習拠点、企業、大学生、有識者など

主に近畿2府4県より104名(主催者、事務局除く)

主催: 近畿地方環境事務所・近畿地方ESD活動支援センター

### ESD-SDGsワークショップ

「学校・行政・拠点をチームワークによる授業・事業をつくろう」

- ・参加者は15グループに分かれる。
- ・3つの会場で作業。
- ・会場ごとにとりまとめ
- ・全体の共有

地域資源を活用して、子どもたちの学ぶ力を育てる授業をつくろう  
地域をつなぐ「社会に開かれた教育課程」とは？！  
学校・行政・拠点の連携により地域の課題解決を目指す！  
2018→2019

近畿地方ESD活動支援センター(2019)  
「近畿ESDフォーラム2018年度報告書」

## III 結果

前述のワークショップでは、学校・行政・拠点が連携し、地域を教材にした授業・事業を行うための留意点が、各会場で左下のように挙げられた。留意点は、3つの要素(●▲■)としてまとめた。

学校・行政・拠点が連携してESDを進める上での留意点

【会場1】  
・行政: 情報発信・情報提供の場づくり ●  
・行政が拠点・学校を集めた場をつくる。行政内の連携も大事 ●▲  
・拠点: 教員をサポートしていく。ある程度地域が主導した形で連携も可能。 ▲  
・学校: ゴールを設定して共有していくことでつながる。ESDの視点を教員自身が持つことが必要。地域と先生から、地域と学校とのつながりに発展していく。 ▲■  
☆コーディネーターの人材の必要性 ▲

【会場2】  
①それぞれがお互いに強み・弱みを出して知り合うことが必要。その上で自分の想いははっきり伝える。 ▲■  
②適切な情報源にアクセスする仕組みを作る。 ●  
③プラットフォーム形成のコーディネーターの存在と、その存在を周知させる仕組み。 ▲  
例: コンソーシアムなど、研修機能も備わっていることも大事。  
学ぶことで互いの意欲化につながる。

【会場3】  
①信頼関係をつくる。ESDを志向する「人」と「人」としてのつながり。 ■  
そのために拠点が中心になって出会う機会、話す機会を持つ。  
②拠点は、市・町・村を超えることができる。 ▲  
③行政には、使ってもらえる施設、交通手段があるが、要望してもらわないと気づかない。 ●  
④行政は信用をもとに道筋をつくる機能がある。 ■  
☆信頼関係で相談することが大切 ■

### 「学校・行政・拠点が連携してESDを進める上での留意点」のまとめ(3要素)

- 情報発信・情報提供の場づくり、適切な情報源にアクセスする仕組みなど、連携を開始・加速するための情報交流。
- ▲ 多様な主体を媒介し、主体間の連携を促す機能・人材。
- 信頼関係をつくること  
将来的に地域と学校のつながりに発展するような地域の人と教員のつながり、あるいは、関わる主体の特性を相互に理解して連携するようつながりを創出する素地として、連携する主体のESDを志向する「人」と「人」同士の信頼関係の醸成。

